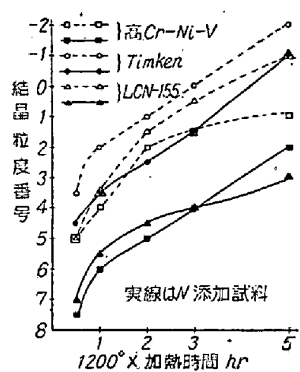


第 4 圖



第 5 圖

(e) 1000~1100°C 程度迄はスケールの発生量は鋼種により餘り著しい差異を示さないが、1200°C になるとその差が著しく、Timken 16-25-6 型は意外に多量のスケールを発生する。  
(以下次號え続く)

(昭和 25 年 5 月寄稿)

### 第 6 回 日 本 工 學 會 大 會

日 時 昭和 27 年 4 月 12 日 (土) 9 時—5 時

會 場 東京 大學 工 學 部

講 演

- |           |                |                  |
|-----------|----------------|------------------|
| 工業教育について  | 東大教授           | 大山松次郎氏           |
| 電源開発について  | 公益委員会<br>委員長   | 松永安左衛門氏<br>(交渉中) |
| 地下資源について  | 東大教授           | 青山秀三郎氏           |
| 最近の海運と造船  | 運輸省<br>船舶局長    | 甘利昂一氏            |
| 陸運の現状と将来  | 日本國有鐵道<br>施設局長 | 立花次郎氏            |
| 工業製品の貿易問題 | (貿易廳長官に人選依頼中)  |                  |